

1 学校教育目標 ころ豊かに たくましく生きる広野っ子の育成 (自ら学ぶ学びのたのしさあふれる学校) ～ 豊かな心・確かな学力・健やかな体 ～

2 本年度の重点目標

社会的に自立する基盤の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成(知) ・命や人権を大切にすること、思いやりの心の育成(徳) ・体力や気力、自主性やリーダー性の育成(体)
---------------	--

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導(研推)	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の確実な定着と個を伸ばす学習指導の充実 ○論理的に考え、伝え合う力の向上 ○主体的に学ぶ意欲と態度の育成 ○自ら方法を選択し、学習に生かすタブレット活用能力の育成 ○教育課程特例校制度による外国語活動の充実 ○兵庫型学習システムに係る交換授業・教科担当による学習指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の確実な定着と個を伸ばす学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・週3日の学習タイムと週2日の読書タイムを15分間設け、読書の推進および反復練習や単元の復習に取り組み、基礎・基本の定着を図った。 ・繰り返し学習等の指導方法を工夫したり、AIドリルを活用したりしながら、漢字学習等、学習習慣や基礎基本的な知識や技能の定着に取り組んだ。 ・3～5年生において広野小がんばり学びタイムを水曜日の放課後に実施することで、基礎・基本的な知識習得に課題のある児童については、算数の四則計算を中心とした基礎的な知識を身につけるよう時間を設定した。 ○論理的に考え、伝え合う力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング学習を取り入れることにより、思考を整理したり順序立てて考えたりする場を設定するようにした。 ・児童が様々な方法で伝え合う場を設定することで、自身の考えを深めたり他者と比較したりする機会を設けた。 ・1人学びで自分の考えをもち、タブレットを使用したり話し合う場を工夫したりすることで、誰もが授業に参加し、考えを広げ深めることができるようにした。 ○主体的に学ぶ意欲と態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生で自主学習を取り入れ、各学年に応じた「自主学習の手引き」を作成し、児童自らが主体的に学ぶとする力を育てたり、学習計画を立てて取り組もうとしたりする態度を養った。 ・各学年の手本となる自主学習を廊下に掲示し更新していくことで、内容の選択やノートのまとめ方が分かり、さらなる意欲につながるよう取り組んだ。 ○自ら方法を選択し、学習に生かすタブレット活用能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や課題が早く終わった時間には、自分で課題を設定し、タブレットを活用した学習に取り組ませた。 ・場面に応じて学習ソフトやアプリを選択し、児童自らが表現方法を工夫できるように学習内容の充実を図った。 ・定期的に朝学習の時間を使って全校生でネットモラル学習に取り組むことで、タブレットの操作能力だけでなく、情報収集や情報選択の際の意識向上を図った。 ○教育課程特例校制度による外国語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと一緒に活動をして挨拶を練習したり、外国語に親しんだりする機会を設けた。 ・系統的にフォニックスを取り入れ、より生活に活かせる外国語の練習にも取り組ませた。 ○兵庫型学習システムに係る交換授業・教科担当による学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教科を分担することで、よりきめ細かな教材研究や教材準備ができ、「分かる授業」「楽しい授業」の充実を図った。 ・より多くの教師が関わり指導していくことで、学習面だけでなく生活面においても共通理解ができ、より個に応じた指導に役立てた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習タイムをさらに充実させるために、学習内容や学習方法を教師間で共有し、基礎基本の定着を図る。 ・広野小がんばり学びタイムについて、地域指導者の確保など、さらなる定着を図る。 ・兵庫型学習システムを有効活用し、児童の実態把握や個に応じた指導の可能性をさらに広げていく。 ・伝え合いや発表活動の方法を工夫し、学習内容や児童の実態に応じた方法を選択できるようにしていく。 ・児童の実態に応じてタブレットを有効活用し、より選択肢の多い学習展開を図る。 ・自ら疑問や課題を解決するためにどのような方法を用いれば良いか事例を示したり一緒に考えたりすることで、自らの学びに生かせるようにする。 ・タブレットを活用した学習方法を教職員間で共有し、まずは教師がタブレットを活用できるようにする。 ・家庭学習をさらに充実させるために、児童に学習モデルを示したり、家庭への啓発を図ったりしていく。 ・タブレットを活用した学習の事例を児童にも紹介し、自主学習などに生かせるようにする。
道徳・人権教育(人権)	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実 ○特別活動や家庭・地域と連携した確かな道徳実践の蓄積 ○地域人材や兵庫版道徳教育副読本を活用し、ふるさとを愛する心の育成 ○自己実現と共生をめざす人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で内容項目や指導時期について計画立案した。さらに、生活目標や他教科と関連させて指導していくことで、道徳の時間に培った力を実生活に生かそうとする児童の姿が見受けられた。 ・人権月間では、人権標語や人権ポスターの掲示に加え、リモートで人権集会を開催し、人権作文の朗読を行うなど、全校生が人権について考える機会をもった。「思いやりの木」を作り、友だちの良い所を書いて掲示した。自尊感情を高めるために各クラスで、互いの良さを見つめ合う活動を行った。 ○特別活動や家庭・地域と連携した確かな道徳実践の蓄積 <ul style="list-style-type: none"> ・親子人権参観に向けて内容や資料を各学年で検討した。可能な限り保護者参加型の授業内容にしたことで、家庭と連携して児童や保護者の人権感覚を高めることができた。 ・特別活動では、ウォークラリーを実施し縦割りのグループで活動を行った。異年齢で活動したことで、相手を思いやる心を育むことができた。 ○地域人材や兵庫版道徳教育副読本を活用し、ふるさとを愛する心の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫版道徳教育副読本を活用し、地域の伝統文化やふるさとを大切にすることの育成を意図した指導を行うことができた。 ○自己実現と共生をめざす人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の児童の母国語を調べて伝えようとしていたり、日本の文化を伝えたりして外国籍の児童理解を図り、多文化共生を目指した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の時間や人権月間だけでなく、日常的に仲間づくりなど、人権を大切にすることを意識させる指導を継続して行う。 ・道徳ノートや振り返りカードの活用について、本年度の実践から見直し、授業の工夫・改善に努める。 ・校内の人権集会などの人権月間の取り組みについて、家庭と連携を図り、児童の人権感覚を高めていく指導を継続して行う。 ・郷土資料、兵庫版道徳教育副読本の活用を見直し、児童が、自分を取り巻く人や環境を大切にできるよう教材研究に努める。 ・地域の方を講師として招聘した研修をコロナの状況をみながら継続させていく。 ・外国籍の児童と積極的に交流し、互いの違いを知り認め合っている環境づくりをする。
健康・安全教育(安全)	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の大切さを実感させる教育の充実 ○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成 ○防災防災に対する教師の危機対応能力の向上 ○家庭・地域と連携した安全確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の大切さを実感させる教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーと連携し、全学年で心の健康について授業を行った。また、道徳や保健で、自分の体や心を守る大切さの指導を行った。 ・委員会活動を通して、うさぎふれあいタイム・熱中症予防の啓発等を行った。 ○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・地震の避難訓練の時間設定や、通行不可の場所を伝えず行った。臨機応変に「シェイクアウト」の態勢かとれるよう、校舎内に戻らないこと等、学級指導の徹底を行った。また、1・17集会では、EARTH隊員により、震災や防災・減災の取組について教えていただいた。 ・9月に4年～6年児童、保護者向けにサイバー犯罪防止教室を行った。SNS上で起こりうることを知り、身を守るための方法を学んだ。 ○防災防災に対する教師の危機対応能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の前に、統一した指導ができるよう担当よりミニ研修を行った。 ・毎月の安全点検に加え、転落防止につながる場所はないか再点検を行った。 ・教師対象に、警察官を講師に迎え、不審者対応のさすまた訓練を行った。 ○家庭・地域と連携した安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・登校班に遅れて通学する児童や、登下校中地域の方に迷惑となるようなことがあった場合は、学級指導を行うとともに、臨時で地区児童会の開催や一斉下校による指導を行った。 ・大寒波によって、通学路が凍結した際、安全確保のために「すくーる」で周知するとともに、家庭・地域と連携し登下校指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた指導を行うとともに、生命の大切さを実感できる教育を継続する。 ・より実践に近い避難訓練を実施することで、児童自ら考え、安全に避難できるよう、継続的に指導する。 ・ICT活用のモラルや、スキルの育成に努める。 ・今後も、最新の危機対応のマネジメントに対する研修を続けていく。 ・定期的に、地区児童会などで、安全面や登下校のルールやマナーについて、児童とともに考えていく場を設定する。
生活指導(生指)	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人のよさを生かした学級経営 ○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進 ○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決 ○SC(市・県)等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人のよさを生かした学級経営 <ul style="list-style-type: none"> ・「見守る児童の研修」を年に2回実施し、また、毎月の職員会議の時間を利用し配慮を要する児童について共通理解を図り、指導に生かすことができた。 ・毎月の生活目標について学級ごとに具体的な内容を話し合うことで、発達段階に応じて適切に指導することができた。 ○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進 <ul style="list-style-type: none"> ・児童会や各委員会が主体となって啓発活動を行うことで、児童の自発的な行動につながった。 ・6年生を対象にした、三木市ネットモラル教室を9月に実施した。また、3～6年生の児童を対象に、県警から講師を招いて10月にサイバー犯罪防止教室を実施し、情報モラルについての意識を高めることができた。さらに保護者の参加を呼びかけることで家庭への啓発を図ることができた。 ・月に1回、朝タイムを利用し、ネットモラルの学習を全校で行い、意識を高めることができた。 ○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決 <ul style="list-style-type: none"> ・心の健康観察を学期に1回ずつ行い、気になる項目に関しては個別に面談をするなどし、児童の内面理解を図ることで指導に生かすことができた。 ・生活指導委員会の中で、問題行動や不登校児童に対する対応について検討し、また、全職員で共有することで共通理解のもと指導することができた。 ・不登校児童、不登校傾向の児童に対する対応について、その都度、該当児童への対応策を練り、指導に当たった。 ○SC(市・県)等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動や不登校についてSCや関係機関と連携を図りながら、教職員、保護者との相談や児童への指導にあたることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会や各委員会と連携し、児童集会の場などで児童が主体となった啓発活動を行うことで毎月の生活目標の指導を促進する。 ・専門家を招いてスマートフォンやSNSの利用についての学習等を中学年、高学年を中心にに行い児童の情報モラルへの意識を高める。今後もより保護者参加型の啓発を呼びかけていく。 ・今後も児童の問題行動やいじめ・不登校児童への対応について全職員で共通理解し、SCや関係機関との連携を図りながら組織的な指導を継続していく。 ・あいさつ運動では、児童会活動を中心に啓発を続け、教職員が率先して取り組む。特に地域の方や来校者に対するあいさつについては家庭と連携・協力を継続しながら、さらに道徳等の教科と関連させることで重点的かつ継続的に指導する。(登校班への声かけ、模範となる児童を褒めること等継続)
特別活動(特活)	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に活動する特別活動の推進 ○一人一人が生かされ参画する学級会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に活動する特別活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・スマイル班活動では、学年を超えて他者理解をしながら協力的な活動ができた。 ・児童会・クラブ活動では、自主的に活動内容を考え、部員や学校のために活動することができた。 ○一人一人が生かされ参画する学級会活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学級会活動では、よりよい学級づくりのためにそれぞれの課題について話し合い活動を行ったり、学級生活の充実を図るための主体的な組織を作って協力して活動をしたりすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を重ねる中で、異学年間で関わる機会が増え、相互理解につながった。今後さらにいろいろな形で交流の機会を考えていく。 ・委員会活動においては、児童が主体的に取り組みを考え活動している姿が見られた。さらに主体的な活動が増えるよう支援をしていく。 ・児童が学校生活をよりよくするための事柄について話し合いを有意義なものにしていくために、自主的・主体的な委員会活動の進め方や内容を検討していく。
特別支援教育(特支)	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の推進 ○教員の専門性の向上と、個に応じた指導の充実 ○国際理解・多文化共生の推進 ○園小中連携教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズに応じた「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成し、関係機関と連携しながら効果的な支援、指導を行った。 ・支援を必要とする児童の実態把握や指導、支援内容の協議、見直しを定期的に行い、教職員間で共通理解を図った。 ○国際理解・多文化共生の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生教育の重要性を認識し、児童の国際化に対応する能力の育成を図った。 ・外国籍児童を含め、全児童が互いに国の文化や生活習慣等の違いを認め合い、理解が図られるよう日常的に指導、支援に努めた。 ○園小中連携教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・園小や小中の連絡会を開いたり、園所を訪問したりし、学校園での取組や園児、児童、生徒についての情報交換をし、連携を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援・指導計画については、医療や福祉等の関係機関の情報を反映するとともに、評価を見直しを定期的に行う。 ・児童の実態の状態を踏まえた教育課程編成や交流、共同学習などについて実践事例を収集、発信し、教育内容・方法の充実を図る。 ・多文化に触れる機会を増やし、国際化に対応する能力を育てるための授業の改善、工夫をしていく。また、外国籍児童の日本語指導についても校内体制づくりに努める。 ・連絡会や交流等で児童の共通理解を図り、連携を深めるとともに、特別支援学校や医療・福祉機関等からの専門的な助言を得る。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・評価するにあたっての項目、資料等、概ね適切に評価されている。 ・児童、教職員、保護者アンケートの数値を目安としながら、児童の学びや生活の状況を分析し、実態に即した適切な評価であると考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は概ね妥当である。 ・例年、基礎学力の定着についての指導が工夫されていると感じるが、タブレットの活用という選択肢が増え、今まで以上に個々に合った学びを実践していることが分かった。しかし、児童、保護者アンケートの結果では、主体的に学んでいるかどうかの項目の部分が少し低いので、今後とも一人一人を大切に学習指導を続けていただきたい。 ・A Iドリル、プログラミング学習、タブレット、「自主学習の手引き」作成、兵庫型学習システム等を含み、学習指導の向上に取り組んでいる状況や改善の方策、共に素晴らしいものである。 ・一人一台のタブレットを有効活用し、より選択肢の多い学習展開を図ることができている。 ・タブレットを使用することで、楽しく学習することができている。低学年もタブレットになれることができるよう、分かりやすく指導がなされている。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・地域や家庭と連携して、人権感覚を高める指導がなされていると感じる。地域の方のお話を聞く機会や、親子で学ぶ機会を多く設定されている。縦割り班活動でも日常的に異学年で協力し、相手を思いやる心が育っており、ウォークラリーやスマイルフェスティバルなどの高学年が活躍できる場面は、児童の自尊心が高まることに繋がっている。今後も是非続けていきたい。 ・多様な場面での指導や授業時間数の確保に努められ、また、外国籍児童にも十分な配慮と指導がなされている。 ・自然や文化を大切にしている心が伝わっている。 ・今年度は保護者参加型の人権学習が行って良かった。外国籍児童の母国語を調べたり、異文化への理解など、良い活動がなされている。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・予測できない災害を想定しての避難訓練や、家庭と連携し、防犯意識を高める機会が設定されている。児童・保護者アンケートの結果では、健康面の関心が少し低いので、コロナが落ち着いた後は、児童が規制なくのびのびと体力づくりにつながる活動が再開できることを期待している。 ・不審者による学校への侵入等の事件が続いている中で、児童はもちろん、教職員も安全・安心に過ごせるように願っている。地域の安全、安心は地域の者の務めだと思っている。 ・「すくーる」が活用され、体調管理等が迅速にできるようになっていく。 ・サイバー犯罪防止教室は、保護者にとっても関心のある行事なので、とても助かっている。地震を想定した避難訓練では、本格的な訓練だと感じた。実践力が身につく、良い訓練だと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は概ね妥当である。 ・ICTの活用に伴ってサイバー犯罪防止教室を開催する等、児童の身近な危険について学習する場を設定し、それらを保護者へ啓発している事は大切であると考えている。また、心の健康観察、見守る児童の研修等、配慮が必要な児童や家庭への理解を学校全体で共通理解を図っている事は家庭にとっても心強い。 ・ネット世界が広がっている生活の中で、ネットモラルの学習は重要な事と考える。そのための様々な取り組み状況や方策を支持したい。 ・挨拶は、コロナの影響もありなかなか大きな声で挨拶したり、挨拶をする回数が少なくなるのは仕方ないかと思う。コロナが収まったら少しずつ大きな声も増えていくのではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は概ね妥当である。 ・縦割り班活動をはじめ、児童が主体的に活動できる機会がたくさん設けられている。児童アンケートの結果からも、友達の個性を認め、助け合って過ごすことができていくことが分かる。 ・主体的な活動、縦割り班活動等、今の時代に必要な取り組みが継続的に取り組まれている。 ・異学年の児童同士が仲良くなると、学校生活がより安心して楽しく送れると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当である。 ・関係機関と連携を図り、個別の支援計画・指導計画が作成され、環境整備や支援を要する児童への理解を深めることに尽力している。 ・外国籍児童への配慮と指導体制づくりに努めている。 ・一人一人に合った支援・指導がなされている。 ・支援学級の児童は、自立活動や生活単元学習等で異年齢のクラスメイトと一緒に楽しく学べ、支援学級で自信をつけたり安心してできるおかげで交流学級でも頑張ることができていると感じる。